

【多治見市】

校務DX計画

1 校務のDX化に向けた取組

本市では、令和2年度に児童生徒に対して、一人一台端末を整備すると同時に、市内の教職員にも一人一台端末を整備した。それに伴って、校務のDX化にも取り組んできた。「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の結果を見ると、「職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化をしているか。」では、完全にペーパーレス化71.4%。一部28.6%とほぼペーパーレス化されている。「教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れているか。」では、取り入れているが100%である。また、「保護者へのお便り・配布物を、クラウドサービスを用いて一斉配信しているか。」でも、全くしていないが0%である。このように、ペーパーレス化や情報共有の方法としてクラウドの活用が進んでいる。しかし、「保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けているか。」では、全くしていない52.4%。「保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っているか。」では、全くしていない85.7%と、保護者がクラウドサービスを活用する面ではまだ課題が見られる。

今後は、さらなる校務DX化に向けて、保護者の活用による業務の軽減に力を入れていく。

2 校務のDX化に向けた具体的な取組

・授業と校務で、アプリケーションの使い分け

本市では、授業では、「ロイロノート・スクール」。校務では、マイクロソフトの「Teams」と「校務支援システム(Te-Comp@ss)」。オンライン授業の配信は、「Teams」と、市で統一してアプリケーションを使い分けている。内容に関しては、右の表のとおりである。

・教職員間の資料をペーパーレス化

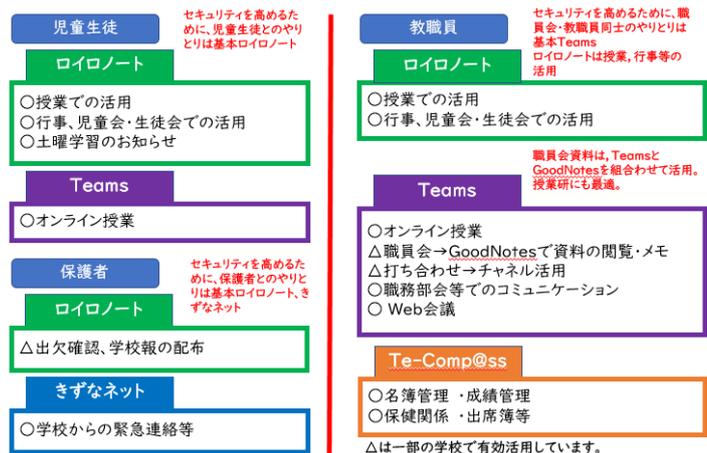
デジタルで作成した資料を、「Teams」でチャンネルを分けて管理。職員会議や研修会の資料を共有している。

・授業で使用する教材を共有

「ロイロノート・スクール」等で作成した資料は、ロイロノートのクラウドで保存。市内全教職員が参照可能なフォルダを作成し、データを格納することで、いつでも誰でも使用することが可能となっている。

・校務支援システム(Te-Comp@ss)で必要な情報を管理

名簿等の管理に加え、通知表も市内統一でシステムを活用しているため、市内の異動があってもストレスなく業務にあたる事が可能である。



- ・欠席、遅刻連絡

「ロイロノート・スクール」を活用して保護者のスマートフォンから連絡してもらっている。

- ・配布物等の一斉配信

「きずなネット」を使用し、市内全保護者や児童生徒に向けて一括配信が可能である。

- ・体力測定アプリ「アルファ」の活用

体力測定の結果を端末に直接入力することで、端末上で個人票が作成される。個人票のペーパーレス化につながっている。

- ・学校アンケート等でペーパーレス化

「マイクロソフトフォームズ」や、「ロイロノート・スクール」等を活用し、アンケートの配信、集計、分析をペーパーレスで行っている。

- ・教職員出退勤管理システム(ナビルカクロック)の活用

教職員の出退勤の時間を管理している。

- ・自動採点システムの活用

主に、中学校で活用が進んでいる。業務時間の大幅な短縮につながっている。

3 今後に向けて

校務における生成AIの活用に関しては、リーディングDXスクールのパイロット校の取組を参考にしつつ、どのような校務で活用していくのか積極的に検討していく。次世代の校務システムにおいては、岐阜県の教職員業務改善協議会に参加しながら、今後も県下統一システムを導入するために、具体的な導入時期を検討していく。ネットワーク環境に関しては、つながりにくい学校や時間帯があるなど、課題もあるため、ネットワーク保守業者と連携し対応していく。また、FAX利用や押印については、原則廃止に向け引き続き取り組む。

このように、今後も、クラウド環境を基盤とした教育活動や、教職員の校務での負担を軽減する等、全ての教育環境を適切に整備していく。